

行政視察報告

総務文教常任委員会

11月6日～8日

森山 昭、笹川信子、梶 勉、阿部銀次郎、西川哲司、島田伸子、杉井 旬、小林 誠

連携・共通理解のもとで推進 ○学校給食のアレルギー対策について (栃木県足利市)

足利市では、食物アレルギーの適切な推進のため、平成24年2月に「足利市学校給食食物アレルギー対応マニュアル」を作成。保護者、主治医、学校医等とともに連携を図り、教職員全員が食物アレルギーに関する知識と共通理解のもと、児童生徒に必要な配慮に努めており、実際の対応については医学的な指導・助言を受けながら適切に行えるよう学校給食食物アレルギー相談医を設置していました。

独自の教職員研修を実施

○教育センターを活用した教職員研修について(栃木県宇都宮市)
宇都宮市教育センターでは、学校教育を取り巻くさまざまな課題や教育的ニーズに対応するため、相談、研修、情報教育、調査研究の4つの機能が役

割を果たすことで、教職員、児童生徒、保護者が生き生きと輝けるよう支援しています。また、教職員に対し、資質能力の育成を図るため、ライフステージに応じた資質能力を育成する基本研修や専門研修のほか、教員マイスター制度や授業実践力養成サポート事業など独自の研修を行っていました。

市有財産を一元管理

○公共施設の活用(ファシリティマネジメント推進事業)について(千葉県県佐倉市)
佐倉市では、市有財産情報の一元化されたデータの不在、施設の老朽化、厳しい財政状況などが抱える諸課題を解決するため、ファシリティマネジメントという経営管理手法を取り入れ、資産管理経営室を設置しています。市有財産の一元管理を行いコストの最小化や施設効用の最大化を図り、庁舎内壁面や庁用車への広告掲載、市有財

産に設置する自動販売機の一般競争入札、学校のプール授業の民間プールの活用などの取り組みを行っていました。

まとめ

食物アレルギー対応については、対応児童生徒の多少による学校間での温度差が生じないように関係者への意識啓発が必要です。また、どんなに対応を詳細に検討しても児童生徒が最後に判断をして口にするので、エビペンの使用を含め事故事例から学ぶ必要があると感じました。

市民福祉常任委員会

11月6日～8日

野崎正志、岡田竜一、土田俊人、熊倉 均、鶴巻俊樹、名古屋豊、山田富義、武藤元美

みんなの健康づくりを強化

○自殺予防対策について(静岡県富士市)

平成18年からこころの健康づくりに本格的に取り組む、19年度からは県の産業都市におけるうつ自殺予防対策モデル事業に連携協力し、また21年度からは地域自殺対策緊急強化事業をスタートさせた中で、富士市自殺対策庁内連絡会を組織して関係課と連携協力し、うつ自殺予防の推進を図っていました。こうした努力によってか、富士

日照時間日本一を生かす

○新エネルギー政策について(静岡県浜松市)
太陽光発電導入日本一を目指し、地元金融機関と協力してエネルギーの地産地消や自給率向上等に寄与する太陽光発電システムの導入・拡大に向けた事業を展開し、住宅用太陽光発電シス

テム設置費補助金、公共施設屋根貸し太陽光発電事業などを行っています。また、地域企業の振興や遊休地の有効活用などを目的に大規模太陽光発電所の誘致などを積極的に進めており、運転開始発電所は19件、発電出力は合計で2万1032kwとの説明がありました。

基幹病院と開業医の連携がカギ

○市立四日市病院救命救急センターについて(三重県四日市市)

平成15年4月に救急センターを開設し、21年2月には救命救急センターの指定を受けて、脳卒中や心筋梗塞など生命の危機にひんした重篤な患者の受け入れを行っており、24年からは身体状態や症状の程度により患者の診察順を判断する院内トリアージを開始。また、地域医療機関との連携(病診連携)を図るために病院ロビーに相談センター(サルビア)を設置。開業医の予約や退院後回復期のサポート、セカンドオピニオンなど「つなぎ役」を果たしていました。



浜松・浜名湖太陽光発電所

経済建設常任委員会

11月12日～14日

武石栄二、藤田博史、吉田進一郎、下村喜作、佐藤和雄、高坂登志郎、横山一雄、佐藤宗司

「食」と「農」を核とした 産業の価値創造を

○食農産業クラスター推進事業について(愛知県豊橋市)

まとめ

今回の視察で一番印象的だった浜松市では、市民や事業者等の太陽光発電設備設置に係る総合的な支援の総合窓口としてソーラーセンターを開設していることに驚きました。また、津波対策として、避難所等の防災拠点に太陽光発電や蓄電池付きLED誘導灯を設置していました。三条市も市有地の有効利用などで新エネルギー政策の取り組みを実施する時期に来ているのではないかと考えさせられました。

防災拠点・一時避難所を整備

○広尾防災公園について(千葉県市川市)

地区における市民1人当たりの都市公園の面積が少なく、災害時における避難場所の面積も不足しているとして、大規模工場跡地を利用し、平常時はレクリエーションの場として、災害



市川市の広尾防災公園にて



旧市街地の活性化を進める犬山市の城下町のまち並み



足利市学校給食食物アレルギー対応マニュアル



宇都宮市教育センター